

令和元年度 盛岡大学附属高校 学校自己評価及び学校関係者評価書

1. 今年度の重点目標・具体的な取り組み

学校経営方針	キリスト教主義に基づいて教育を行い、愛と奉仕の精神を体した人格を形成する。
今年度学校重点目標	1) 生徒一人ひとりを大切に、基本を重視し、基礎を確実に身に付ける、きめ細やかな指導を行う。 2) 高大連携を充実させ、県内唯一の大学附属高等学校として、「知性、感性、体力にバランスのとれた教養人の育成」を目指す。
今年度の具体的な取り組み	1) 入学者の定員確保に努める。 2) 教育課程の改善を検討、実施する。 3) 新学習指導要領に対応した教育改善の検討を進める。 4) 高大連携を充実させるとともに、高大接続改革に備える。 5) 留学制度等特色ある教育活動に取り組む。 6) コンプライアンスの徹底を図る。 7) 施設設備の改善を検討する。

2. 今年度の学校自己評価の結果

	重点目標	具体的方策	自己評価		関係者評価	
			達成状況	改善策	達成状況	改善策
(1) 学校経営	150名の入学定員を確保し、適切な教育環境を維持する。	1 専願推薦入学者120名、一般入学志願者400名以上を確保する。	B	専願推薦入学予定者は117名であった。また、一般入試前期318名・学校長併願推薦60名の志願者であった。年度当初の目標にどちらも到達できず、新入生の定員確保も現時点(1/15)では苦しい状況である。一般入試後期・再募集に向けて、再度中学校訪問を実施したい。次年度は、盛岡地域の中学生数が200名程度減少する見込みなので、専願生徒の獲得に向けて強化指定クラブと連携した中学校訪問を展開したい。	B	B
学校関係者評価委員の意見		定員充足率の上位2校と比べても、定員を下回ることもなく、生徒募集の見地から、安定した経営がなされていると思います。				
(2) 総務・渉外	PTA・教育後援会・同窓会活動の活性化を図り、学習活動環境をより充実させる。	1 「PTA・教育後援会について」例年行っている活動を継続しながらメール等で周知を図り参加者増を目指す。「同窓会について」広報活動に務める。同窓会名簿の今年度完成に向け資料収集に努める。	B	保護者・後援会員の方々の協力で、スムーズに例年通りの活動を行うことができた。PTA研修等はメールで参加を呼び掛けたが参加者増には繋がらなかった。より魅力的な企画を考えたい。同窓会名簿は37年ぶりに発刊することができた。業者の手違いで旧職員の逝去情報に間違いがあり、業者負担で訂正状を購入者に送ったことは残念であった。発刊後情報を寄せてくれた方もいるので今度とも情報収集に努めたい。	B	B
		2 生徒の学習環境の確保に努め、避難訓練、防災教育の充実を図る。	A	避難訓練は予定通り実施した。地震対応が続いていたので火災対応の訓練を実施した。防災講話はインフルエンザ流行のため、予定を延期して1月28日に実施。来年度も実施していきたい。	A	A
学校関係者評価委員の意見		保護者アンケートを見ると概ね満足されているように見受けられました。しかし2年生になると、生徒及び保護者が厳しく評価をしているように思われます。そのことについて、教員側が検討する必要があると思います。				
(3) 学習指導	自ら学ぶ意欲を育て、学習する習慣を身につけさせる。	1 教科の特性に応じて「家庭学習課題」を出し、家庭学習習慣の育成に努める。	C	授業アンケートでは、前年度40%の生徒が予習も復習もしないと答えた。今年度は微増し、42%となった。家庭学習課題は出しているが、部活動の問題や進路意識の弱さ、家庭の協力を仰ぐなどの改善が必要である。	B	B
		2 観点別評価を実施し、生徒を多様な視点から評価することで学習意欲を喚起する。	B	多様な生徒を観点別で総合的に評価している。しかし、授業マナーアップでは特定の生徒が指導されている。授業改善とあわせて進める必要がある。さらに多くの学習の場(種類、量)を提供することで、多様な生徒の学習意欲を喚起したい。	B	B
学校関係者評価委員の意見		保護者アンケートにも出ているように、学力向上に力を入れてほしい。また、先生方がさらなるチームワークで、生徒の力を引き出してほしい。				

	重点目標	具体的方策	自己評価		関係者評価	
			達成状況	改善策	達成状況	改善策
(4) 生徒指導	基本的な生活習慣の確立。 問題行動、いじめ等のない環境づくり及び適切な対応	1 諸届用紙の適当な活用を図る。	A	遅刻届の改善ができなかったが、その他様式の改良等含め、概ね良好。	B	B
		2 服装頭髪マナーアップの実践に取り組む。	B	指導者の意識統一が課題。整容指導への意識を高める呼びかけの他、執行部、委員会を活用する。	B	B
		3 規定を遵守する。	B	いじめの認知、解決の解釈に問題が生じた場面があった。研修等の取り組みが必要。	B	B
学校関係者評価委員の意見		遅刻回数は、昨年同様にクラスによるばらつきがみられる様に思います。				
(5) 保健	生涯を通じて、健康で安全な生活を送るための基礎を培い、たくましく生きていけるように実践能力を育成する。	1 「健康生活5か条」を意識して生活するよう指導する。睡眠、スマホ等についてのアンケートを実施し、生徒自身の生活の振り返りに役立てると同時に今後の指導に役立てる。	B	「健康生活五か条」については、担任からの指導の他、全校集会時や保健便りを利用して指導した。睡眠については、女子の休日の起床時間が遅いが、他は良い傾向が続いている。スマホ等については、休日には5時間超えて使用が約半数を占め、健康被害が心配である。生活の必需品になってきたスマホ等の指導は非常に難しい。使用時間だけではなく、使用目的や使用方法等、別の面からのアプローチも検討したい。	B	B
		2 心身の悩みや生活の乱れ等による来室者に対し、面談したり改善策と一緒に考えたりし、自分で解決していけるよう支援する。	A	保健室来室者の多くは、生活の乱れや精神的なことから体調不良を訴えて来る。障害や病気を持つ生徒や人と関わることが苦手な生徒、家庭に問題を抱えている生徒も増えている。出来るだけ一人ひとり時間をとり、話を聴いたり一緒に考えたりした。時間的な余裕がないと対応出来ないため、仕事内容の見直しが必要である。	A	A
学校関係者評価委員の意見		十分な取り組みがなされていると思います。				
(6) 教育相談	学校生活において、生徒を中心にした学習、生活、進路などの相談を実施し、安心感のある生活が送られるようサポートする。	1 サポート室登校の生徒に対し、効果的な学習指導や進路指導の実施を継続する。	B	不適応生徒指導員と教科担任による授業の実施。12月現在8名在籍、中には1・2時間程度で教室復帰する生徒もいるので、更なる担任との連携が必要。	B	B
		2 サポート室の利用者に寄り添い、個々の悩みに対して適切な対応をとる。	A	不適応生徒指導員と養護教諭の連携のもと早期に生徒の相談に対応できている。	A	A
		3 スクールカウンセラーによる月2回のカウンセリングを通し、生徒・保護者・教員の心の安定に寄与する。	A	カウンセラーとの連絡調整は、上手くいっている。カウンセリングは現在、保護者22回、生徒24回実施。保護者・生徒の心の安定に繋がっている。	A	A
学校関係者評価委員の意見		丁寧でしっかりとした取り組みがなされていると思います。				

	重点目標	具体的方策	自己評価		関係者評価	
			達成状況	改善策	達成状況	改善策
(7)進路指導	自分を知り、自分を生かす進路の発見、進路目標を達成する基礎的な学力、社会性・自己管理能力を学校生活の全場面を通じて育成する。	1 盛岡大学・同短期大学部をはじめとする、上級学校への進学を希望に応じて達成する。	B	経済的な面での改善もあり進学者数の増加があり、また附属推薦でも検討・改善が見られたが、運動部への配慮は今後の課題である。	B	B
		2 進学コース・教進コースにおいても、センター試験を受験させ、特進コースと合わせて、国公立大学進学希望者の4割の合格を目標とする。	B	一般入試同様、推薦・AO入試でも一層早期の取組が必要である。探究との関連を含め、さらなる生徒の自主性と教員のフォローが求められる。	B	B
		3 基礎学力の定着を目的として、進路マップなどの取り組みを実施する。その分析も行う。	B	動機付け、目的意識の早期の構築など、ここでも探究との関連を含め、さらなる生徒の自主性と教員のフォローが求められる。	B	B
学校関係者評価委員の意見		附属高校から盛岡大学（保育・幼児教育コース）に進学した学生は、明確な目標を抱き入学して来るので、入学者は著しいほどの伸びを感じます。				
(8)家庭・地域との連携	地域に信頼される開かれた学校づくりに取り組む。	1 生徒による地域行事やボランティア活動への参加を奨励し、地域との交流を、さらに図る。また、それらの活動内容を広く保護者等に知らせる。	A	ボランティア活動は、昨年度同様に活発に活動がなされた。	A	A
		2 年2回の三者面談を中心に、家庭との連携を密にした学校運営を心掛ける。	B	クラス担任を中心に一層の連携を図る必要がある。	B	A
学校関係者評価委員の意見		今年度も、本校生徒のボランティア活動は活発であり、地域や事業所からの評価に関してもよかったと思われまます。				
(9)学校独自の活動	建学の精神に基づき広くキリスト教主義の理解を広める	1 全校礼拝は全職員・全生徒が聖書・讃美歌を持参で出席する。	A	礼拝前日に生徒向けに連絡をした。また、聖書・讃美歌を忘れた生徒には貸し出しをした。	A	A
		2 宗教委員による司会・会場準備と説教者の確保に努める。	A	会場準備には生徒会も参加し実施できた。説教者は年間予定に基づいて実施できた。	A	A
学校関係者評価委員の意見		「愛と奉仕」を基本方針として、人間教育をしている。礼拝を通じて教育の質を上げる努力を行っていると思われまます。				